

## 武漢事務所便り週間新聞記事報告2010.8.14 - 2010.8.2019号

2010年8月16日付け「長江ネット」により

### 武漢市は第二空港を建設する予定。場所として長江以南を選定

かつての「双空港時代」から10年経ち、武漢市は再び第二空港の建設を計画している。昨日、「武漢総合交通中枢総体計画研究」が国家発展改革委員会の専門家によって認可され、これにより、武漢市が今後、総合的な国際航空センターを建設する決意を表明した。

この「計画書」によると、将来の武漢天河空港は、年間利用旅客数1億人、貨物取扱量300万トンの規模が予想されている。武漢市は天河空港を拡張すると同時に、急速な発展の中で、高付加価値の航空速達便と航空貨物運送業務を担う第二空港の企画を早めに行う必要がある。

武漢第二空港の予定地として武漢長江以南を選定した。長江を挟んで天河空港の対岸に建設し、武漢の地下鉄7号線ターミナル及び武漢咸寧都市間鉄道の隣に位置する。空港の計画規模は年間利用旅客数3000万人、貨物取扱量は300万トンとなる見込だ。

2000年12月31日、都市発展によるニーズに応じて、漢口王家墩空港は市外に移転され、武漢航空会社(東航武漢会社の前身)は天河空港に移転した。これにより、武漢市の「双空港」の時代が終了した。その前には、武漢南湖空港と王家墩空港が長江を挟んで向き合っていたが、南湖空港が閉鎖されてからは、王家墩空港と天河空港の武漢民用双空港状態は20年間続いた。

### 武漢市は全世界から都市計画デザイン案を募集

2010年8月18日付け「長江ネット」により

昨日、武漢市国土企画局は、武漢市8区域の都市計画案を世界中のデザイン機構に対して、募集開始した。

この8区域は武昌沿江地区(白沙洲大橋から一橋まで)、八一路及び延長線路(洪山広場から魯磨路まで)、漢陽沿江地区(漢陽大道から二環線まで)、第二環状線漢陽部分(龍陽大道から濱江大道まで)、友誼大道(徐東路から建設一路まで)、漢江北岸水濱区(古田三路から晴川橋部分まで)、第二環状線漢口発展大道(漢西路から二七橋まで)及び常青路(発展大道から第三環状線まで)である。

各地域における3発展の特徴に基づき、用地分布、交通構成、空間景観、生態保護、建築団地などの分野において、構想や設計を行い、都市計画の指導案を作成する。